



きびがら細工（其四）

東京女高師訓導 山 形 寛

六、彫刻的意味を加味した教材

きびがらを單に棒状のまゝ用ひて構成するだけでは、未だその長所を充分に發揮せしめおほせたものとは云へない。棒状のまゝの構成に於ても、豆細工に勝れる點が多々あるけれども、しかもその多くは豆細工に於ても試み得るものである。然るに茲に説明せんとするものは殆ど豆細工に於ては企て得ないものであるばかりでなく、他の多くの細工に於ても、或は構成の容易なる點に於て、或はその出來たものの持つ氣分の點に於て同一の

効果を擧げ難いものである。

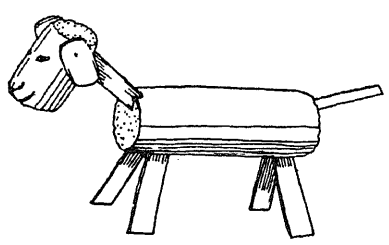
そこで彫刻的意味を加味したとは如何なることを意味するかと云へば、きびがらを單にその自然に出來て居る棒状のまゝを用ふるに止まらないで、或はその一部分をむしり取つたり、切り取つたり、壓縮したり、曲けたりして諸種の形態を模作するものを指すのである。それが如何に面白味が多く又子供に喜ばれるものなるかは、くだくしき理窟を云はないで、實例で示すことにしやう。

一、犬

この教材は殆ど棒状のままのきびがらを用いたもので、彫刻的の意味は少いけれども、後に述べる教材との關係上茲に入れたのである。その工作法は次の如くにする。

(1) 成るべく太いきびがらで、長さ約六センチに切つたもの一本と、長さ約二センチ半に切つたもの一本とを作る。

第二十圖



いぬ

(2) 短い方のきびがらの兩方の切口の角を少し

く指頭で押して丸くする。これは頭になる材料である。

(3) 細いきびがらを長さ一センチ弱に切り、之を縦に二つに割り、且つ之を押しつぶして平たくしてから、四隅を切つて、ほぼ楕圓形とする。これは耳になる材料である。

(4) 頭部に耳を圖に示す如く籤で結合する。

(5) 長さ約三センチ半に切つた、やゝ幅の広い皮、圖の如く頭部と胴とを結合する。この頭、首、胴のつけ工合の角度如何によつて犬らしくなつたりならなかつたりもするし、又犬の如何なる場合の姿勢にもなるのであるから注意を要する。

(6) やゝ幅の広い皮を長さ約五センチに切つたもの四本を作り、之を胴に刺して四肢を作る。四肢を作つたならば立てて見て、掘りのよくなる様に、又犬らしい感じの出る長さにする爲に、先端を切り揃へる。

(7) 細く割つた皮を長さ約三センチに切つたものを、胴の端に圖の如く刺して尾を作る。

(8) 眼、鼻、口等を頭部に畫いて仕上げる。

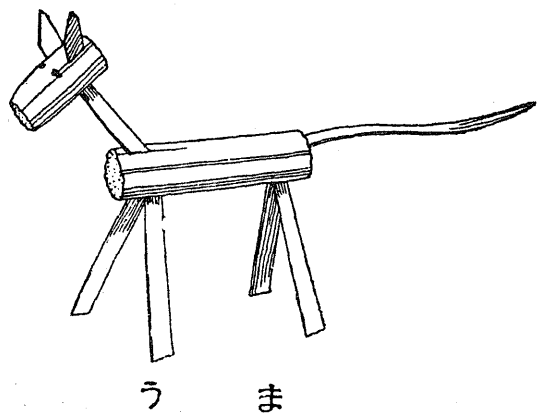
以上で犬の工作を終るのであるが、この工作に於て注意すべきは、胴、首、頭、四肢の大きさの割合と、恰好とで犬らしくもなり、然らずもなるのであるから、その點は充分の注意を要する。又本工作に於て耳の工作が困難であるならば單に皮を短く切つたものを刺して作つてもよい。

二、馬

第十三圖に示した馬の工作は、前節の犬の工作法と殆ど同様であるから別に説明を要しないと思ふが、やゝ異なつた點を述べれば、次の諸點にある。

(1) 胴の長さや太さは犬の場合と殆ど同様でよいが首及び四肢を犬よりもずつと長くし、且つ首

第 十 三 圖



を少しくあほむき加減につけること。

(2) 頭部もやゝ長目に作り、且つ耳はやゝ幅の廣い皮を長さ約一センチ半位に切つたものを圖の如く刺してから、端を斜に切り落し作ること。

(3) 尾は皮を急にはがし取つて一端が漸次うす

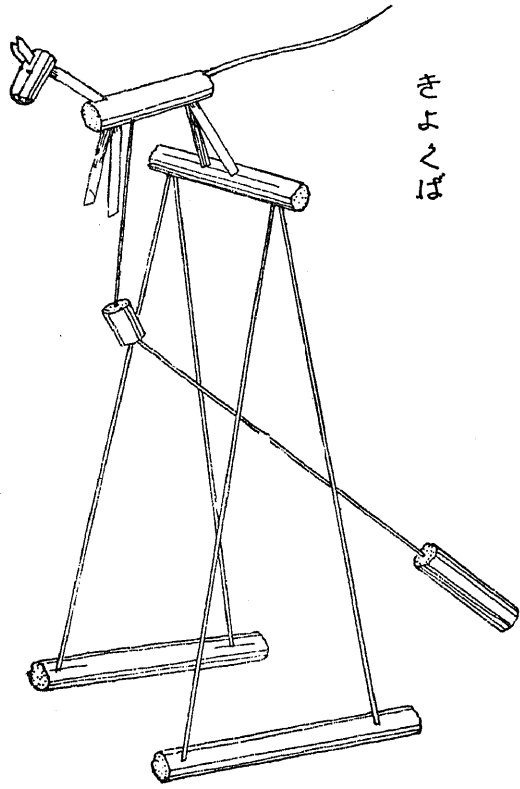
くなつたものを適當の長さに切つて胴に刺し、然
 後、指先で曲げて圖の如く曲線形にすること。
 そして尾は幾分長い目に作つた方が勢よく見える
 こと。

三、曲馬

第十四圖は重心を利用した一種の彌治郎兵衛で
 ある。之を作るには、次の如くする。

- (1) 前課に説明したものと同様な馬を作る。
- (2) 長さ約十センチのきびがら一本と、長さ約
 二十センチのきびがら二本と、成る可く太い籤を
 長さ約四十センチに切つたもの四本とで、第十四

第 十 四 圖



圖に示す如き臺を作る。この臺には下方の土臺に
なる二本のきびがらの間に他のきびがら又は籤を
入れて兩者を結合すれば一層よくなるであらう。

(3) 長さ約十センチの籤一本、長さ約二十セン
チの籤一本、長さ約一センチ半のきびがら一個、長
さ約八センチのきびがら一本とを作り、之を第十
四圖に示す如き關係に接合してから、第一工程で
作つた馬の腹に刺す。この工作に於て各材料の角
度は甚だ重要な關係を持つものであるから、豫め
標本を示して角度の目測をやらせるがよい。

(4) 第三工程で作つた、馬の腹部に錘をつけた
ものを、第二工程で作つた臺の上に圖の如くのせ
て見て、馬が安定に保たれるや否を檢し、若し前
方に傾き過ぎて落ちる様子ならば、錘の先端につ
けたきびがらを少しく切り落して調節したり、二
本の籤の角度を調節したりして修正するがよい。

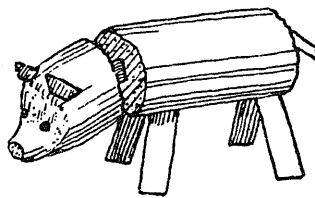
以上の工作が出来れば、錘を少しく揺り動か

して見るがよい。さうすれば恰も馬が踊つて居る
様になるものである。

この工作は比較的容易であつて且つ子供等の喜
ぶものである。

四、豚

第 十 五 圖



ぶ た

第十五圖はきびがらで作つた豚を示したもので
ある。その工作法は次の如くである。

(1) 直徑一センチ半位のきびがらを、長さ約三

センチに切る。この時一端は少しく斜にして置くがよい。この材料は胴になるものである。

(2) 同じ直径のきびがらを、長さ約二センチに切る。これも一端は少しく斜に切つて置くがよいこの材料は頭になるものである。

(3) 第二工程で作つた材料の、斜でなく切つた方の端から、全長の約三分の一位の所に切込をつけ直径の約三分の二だけを少しく斜に缺きとる。

この時一氣に三分の二の切込をつける時は、割れたり、切口が拙くなつたりすることがあるから、少しづつ、數回に切り取るがよい。

(4) 切りとりが出来たならば指頭で角を丸めたり、口の所の突出して居る所を作つたりして顔の形を作り、第十五圖に示す如く小さな皮で作つた耳をつけ、眼を畫き込んだりして頭部を作り上げる。

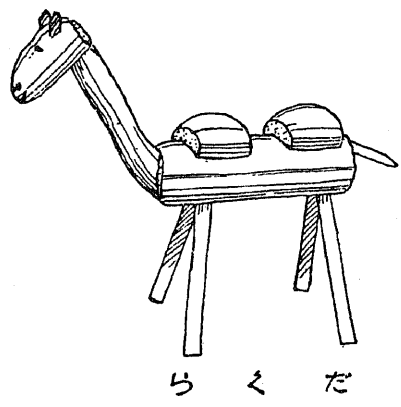
(5) 頭部と胴とを結合し、四肢及び尾を圖の如

くつけて仕上げる。

豚は丈がひくく、顔がしやくんで居るのが形の上の特長であるから、その點を表はしさへすれば豚らしくなるものである。故に肢を作る時の如きは、初めに少しく長目に作つて置いて、少しづつ、切りつめて行つては豚らしく見えるや否を見乍ら作るがよい。

五、らくだ

第十圖



らくだ

第十六圖の如きらくだを作るには、次の如くする。

(1) 最も太いきびがらを長さ約六センチに切つたもの一本(胴)中位の太さのきびがらを、長さ約二センチ半に切つたもの一本(頭)最も細いきびがらを長さ約五センチに切つたもの一本(首)とを作る。

(2) 頭になる材料の兩端の稜を指頭で押して丸味をつけて頭部の形を作り、且つ作つた耳をつけ眼、鼻、口を畫き加へる。

(3) 首になる材料は四方から指で摘んで少しく細くし且つ第十六圖に示す如く幾分曲線的にする

(4) 胴の部分の兩端の稜を押し少しく丸味をつけ、且つ首をとりつける所は凹狀に押し窪めて置く。

(5) 頭、首、胴を組合せて圖の如く接合し、且つ皮で作つた四肢をつける。四肢の長さは六センチ位にするがよい。

部位にするがよい。

(6) 太いきびがらを長さ約一センチに切つたもの二個を作り、各の材料の三分の一位を割りとり、且つ四隅を切つたり指でひねつたりして、まんぢう形となし、三を胴の前後に圖の如く接合して二個のこぶを作る。

(7) 最後に尾をつけ、全體の形を修正して仕上げらる。

この工作に於て主要なる點は首とこぶとの二點である、馬、鹿、きりん等の如き比較的首の長い動物を作るには、本工作の如くするがよい。

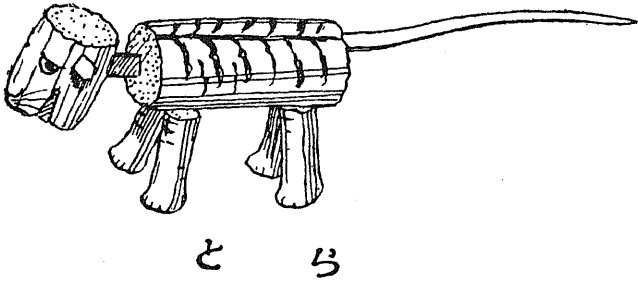
六、虎

第十七圖は虎を示したものであるが、これが製作に於て、これ迄に述べて來た他の動物と異なる所は、肢の作り方と口の作り方との二點である。他の諸點は圖の如き恰好に作ればよい。左に工作

上の主なる點に就て説明しやう。

(1) 肢を作るには、最も細いきびがらを長さ二センチ半位に切り、之を四方から壓して更に細く

圖七十第



とら

し、下方の端だけを掌を表はすために少しく太目にして置く。斯かる構造の肢は、後で恰好をとるために下端を切り捨てるが出来ないから長過ぎた場合には上端で切りつめなければならぬ。そのためには一度胴に接合はしてしまつてからでは拙いから豫め切り揃へて置かなければならない。而してこの肢の長さは胴の大きに従ふべきものであるから、はつきり何センチ何ミリと決定して置くことは出来ないが明に直徑約一センチ位のきびがらを、長さ約五センチ位に切つたものを用ひたならば肢は約二センチ半位でよい。

(2) 頭部は直徑約一センチ半位のを長さ約二センチ半位に切つたもので作ればよいのであるが、第十七圖に示したものの如き口を作るには、ナイフを用ひて斜の切り込を二つつけて口の部分だけを缺きとるのである。この工作は缺ではよく出来難いから、刃の薄いナイフを用ひなければなら

ない。若し口を圖の如くしないで、これ迄に説明したものゝ如く單に畫き込むだけにすればナイフはなくてもよい。

(3) 尾は大體馬の尾に準じて作ればよい。

(4) 全體の組立が出来たならば胴や肢等に、虎特有のあの縞をつけるがよい。この縞のあるなしは虎の感じを出す上に甚だ大切である。

七、象

第十八圖はきびがらの象である。之を作るは次の如くする。

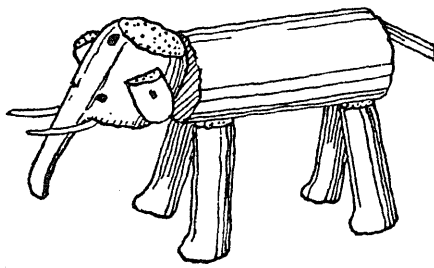
(1) 直徑の最も大きいきびがらを長さ四センチ位に切つたもので胴を作る。

(2) 頭部を作るには、同じ太さのきびがらを、長さ約三センチに切り、中央からやや斜に直徑の約三分の二の切込をつけ、更に縦に缺を入れてその部分だけを切り去り、尙ほ残つた部分の左右か

らも缺を入れて少しく切り去つて、鼻の部分の全體の形を作る。

(3) 前工程で作つたもの、頭の上端を指で摘んで幾分丸味を持たせ鼻の形を指で摘んでととのへる。而して鼻の先端は第十八圖の如く少しく内側

第十八圖



ざう

に曲げて置くがよい。

(4) 直徑一センチ以内のきびがらを、長さ一セ

ンチ弱に切り、之を縦に二分したもので耳を作る
その作り方は犬の耳の工作に準ずればよい。

(5) 頭部に耳をつけ且つ、極めて細く割つた皮
で牙を作つて圖の如くつける。

(6) 四肢は細いきびがらを長さ約二センチに切
り、之を壓し縮めて圖の如く作る。その工作法は
虎の肢の工作法に準ずればよい。

(7) 以上の諸部分が出来たならば、頭、胴、四

肢を結合し、且つ小さな皮で尾を作つて、圖の如
き形となし、眼を畫き添へて完成する。

本工作に於て主要な點は、鼻と牙との作り方と
胴、頭のつけ合との二點であるから、この點は
注意して授けるがよい。

○ぬり系

日本幼稚園協會編フネーベル館發行のぬり系は近日中に發賣せられる筈であります。幼兒の好むいろ／＼の線畫を與へてこれに色鉛筆又はクレオンを使用して色彩を與へることは教育的價値の甚だ大なる一作業であります。このぬり系は東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て研究した材料を集めて二冊をなし一ヶ年に一冊使用するやうに配當してあります。尙ほ餘白を設けて使用者がいろ／＼の繪を附加したりまた自由畫、切紙等を一冊にまとめ置く便宜を、考査したのであります。紙数は二十枚で定價は金參拾錢であります。